

発刊に当たって

越後平野には古くから潟と呼ばれる湖沼が点在し、人々の生活は潟と密接にかかわってきました。本市にも、地域の暮らしに根ざした「里潟」ともいべき個性豊かな潟が多く残っています。

新潟市潟環境研究所は、潟に関する総合的な研究機関として平成26年4月に設置されました。これは、22年に新潟市都市政策研究所がまとめた「田園環境都市構想」の実現に向けた方策の一つを実践するものです。「潟」を、本市のアイデンティティの一つである水と土の象徴ととらえ、その魅力や価値を再発見・再構築するとともに、これからの時代における方向性を探求していきます。

当研究所では、庁内の関係部署職員のほか、外部の関係者の皆さまからも研究活動に携わっていただく体制を整えてきました。客員研究員、研究補助員、外部相談員と、それぞれの立場でご協力をいただきました皆さまに、あらためてお礼申し上げます。

さて、設立初年度、大変印象深かったこととして27年2月に行った当研究所の活動報告会が挙げられます。「水と土の芸術祭2015」の第2回プレシンポジウム内で行ったもので、パネルディスカッション形式の報告に、参加者の皆さまから深い興味と関心を持って熱心にご視聴いただいたことは大きな喜びでした。

また3月には、当研究所の公式サイト「潟のデジタル博物館」を開設しました。16の潟を対象として、潟に関する情報や自然・歴史・民俗などの資料を、どなたにも楽しみながら理解していただけるよう、分かりやすく掲載しています。今後さらに内容の充実を図り、多くの皆さまに「潟」の魅力や価値を伝えていきたいと思えます。

この報告書は、各研究員がそれぞれのテーマに基づいて研究した、平成26年度の成果をまとめたものです。なお、潟の形成過程について、環境地質学・環境地形学の観点から、元新潟大学理学部講師・理学博士の卯田 強先生に、特別寄稿を御執筆いただきました。

報告内容について、多方面の皆さまから忌憚のないご意見を頂戴し、「潟」の魅力や価値を未来に伝えていくための糧とさせていただけたら幸いです。本冊子が、当研究所の調査研究内容を多くの皆さまに知っていただき、一層の関心を持っていただくきっかけとなることを願っております。

平成27年6月

新潟市潟環境研究所
所長 大熊 孝



目 次

<研究成果報告>

- ・日本人の自然観を振り返り、“魂が還れる自然”の復元を考える
～新潟市潟環境研究所の基本理念と目標に変えて～
大熊 孝 新潟市潟環境研究所 所長 …………… 5
- ・田んぼダムによる潟の水質改善に関する研究
吉川夏樹 客員研究員／新潟大学農学部准教授…………… 13
- ・掘削地の植物相調査と土壌撒きだし試験による福島潟の埋土種子集団の解明
志賀 隆 客員研究員／新潟大学教育学部准教授…………… 35
- ・越後平野の湖沼の魚類相
井上信夫 研究補助員／生物多様性保全ネットワーク新潟 …………… 57
- ・新潟市西区に関する潟と人の共存（里潟）について
～潟の歴史的関わりについて（佐潟を中心として）～
太田和宏 研究補助員／赤塚中学校地域教育コーディネーター …………… 65

<特別寄稿>

- 『潟』の新潟
卯田 強／元新潟大学理学部講師…………… 91

<参考資料>

- ・平成26年度潟環境研究所 研究体制 …………… 101
- ・潟環境研究所月例会議概要
- ・潟環境研究所ニュースレター（創刊号、第2号）
- ・研究対象とする16の潟について

【表紙写真】古俣近建氏「ヒシ取りの人達」昭和34年～昭和40年の時期に撮影

この写真は鎧潟でのヒシ取りの様子を写したものです。干拓前、夏になると鎧潟の水面はヒシで覆われました。『潟東村誌』、『鎧潟 1965』によると、7月半ば頃から秋の彼岸の頃までのヒシ取りは潟端集落の女性たちの仕事でした。早朝、まだ暗いときから潟に舟を出し、舟の先のほうに乗って、手でつるを引き寄せてもいだといいます。その様子がうかがえる一枚です。